

コンピュータのこんな使い方

「情報収集、情報交換の手段としての活用」
福島市立福島第四小学校

1. 研究のねらい

本研究では、子どもの思いや願いを生かし、次のような方法でコンピュータ活用をすることにより、子どもの共感的理解や社会的なものの見方、考え方を深めることをねらいとした。

- (1) 情報収集の手段としてのパソコン通信の活用
- (2) 情報交換の手段として、LAN (Local Area Network) の一斉転送機能の活用

2. 授業の実際とコンピュータ活用

＜6年社会科「一人ひとりを大切に政治」＞

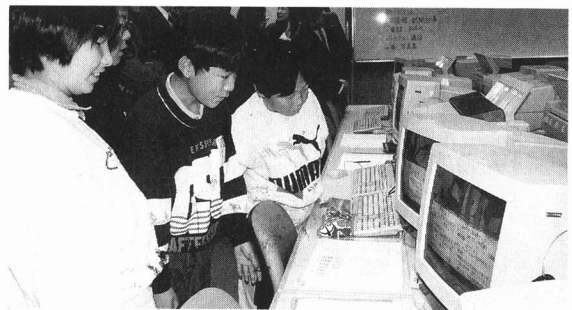
学習の流れ	コンピュータ活用
1 阪神大震災の写真を見て問題をつかむ。 (第1時)	○ OHCとLANを結びつけた活用(資料提示)
2 阪神大震災における人々の願いや政治の働きについて、調べる。 (第2・3・4時)	○ パソコン通信の活用(情報収集の手段)
3 調べたこと、考えたことを新聞などにまとめる。 (第5時)	○ コンピュータを活用した新聞作り(表現の手段)
4 新聞や収集した資料をもとに考えたことを情報交換し、災害復旧での政治の働きについて考える。(第6時)	○ LANやOHCの活用(情報交換の手段)

(1) 第2・3・4時の授業の実際

子どもそれぞれが、自分の学習問題と解決の見通しに基づいて調べていた。県立図書館での新聞記事の収集、電話やFAXでの被災者の生の声の収集、パソコン通信から収集した情報の取捨選択など、自分の情報ネットワークを十分に活用した活動を行っていた。特にパソコン通信から被災者の生の声を収集した子ども達は、被災のひどさ、政治に対する願いの切実さに共感し、「友達にも伝えたい」という思いを持って、次時の新聞作りに望むことができた。

(2) 第6時の授業の実際

子どもが調べたこと、考えたことを表現した新聞や、収集した資料をもとに情報交換をした。



【友達の新聞を見て、話し合う子ども達】

情報交換の際は、LANやOHCの機能を生かし、コンピュータに取り込んだ新聞や収集した写真、新聞記事を一斉転送をした。これにより、友達の調べ方や考え方にふれ、自分の調べ方や考え方と比較することができた。

3 研究のまとめ

情報収集や情報交換の手段としてコンピュータを活用したことは、被災者に対する共感的理解を深め、また、話し合いにより、自分の見方や考え方を深めるうえで効果的であった。